

深溝玉軸受



1. 構造および特性

転がり軸受のなかで最も多方面に使用されている深溝玉軸受は、内輪・外輪とも軌道は円弧状の深い溝になっており、ラジアル荷重、両方向のアキシアル荷重、またはそれらの組合せである合成荷重を受けることができ、高速回転にも適している。

寸法表には、図1に示す保持器形式、特殊形状ごとに図例番号を記載している。

図例1は打抜き保持器、図例2～図例7はもみ抜き保持器を表している。また、図例3～図例6は内輪の切欠き位置および形状を表し、図例7は内輪にキー溝を付けている。

保持器は、打抜き保持器が一般に用いられるが、大形軸受あるいは高速用軸受には、もみ抜き保持器が用いられる。

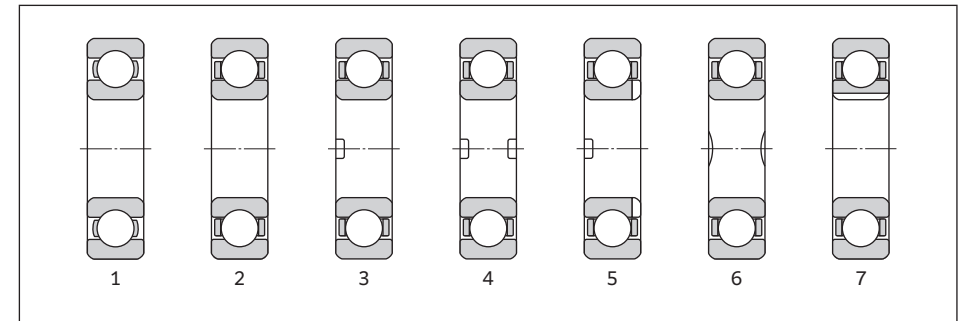


図1 深溝玉軸受 図例

2. 寸法精度・回転精度

表3.3 (A-18～A-19 ページ) をご参照ください。

5. 許容傾き角

1/1 500～1/300

3. 推奨はめあい

表4.2 (A-33～A-34 ページ) をご参照ください。

6. 使用上の注意

運転中の軸受荷重が小さいと、玉と軌道の間で滑りが生じ、スミアリングの原因になる場合がある。特に大形深溝玉軸受では玉と保持器の質量が大きいためこの傾向がある。

なお、詳細については、NTNにご照会ください。

4. 軸受内部すきま

表5.2 (A-40 ページ) をご参照ください。

